

北の技術情報誌

# Hint!

第27号

Hokkaido Information of Technology

2014.Aug.

## Contents 目次

Topics

「公共工事等における新技術活用システム」の改正について... 1  
「新技術活用状況について」

TRY

NETIS現場Pick up... 2  
ローピングウォール工法 [NETIS No. QS-000021-V]

■表紙の写真 一般国道38号 富良野市 三の山 (樹海峠)

# Topics 「公共工事等における新技術活用システム」の改正について

公共工事等における新技術活用システムについては、事後評価情報の充実を図るために改正した平成22年3月の運用から4年が経過しました。これまでのシステム運用状況を踏まえ、国土交通省は、「新技術の登録申請時及び活用後の評価における技術特性の明確化」、「現場ニーズに基づく技術公募による活用・評価の促進」、「外部機関の活用による評価の効率化」等を目的に、「公共工事等における新技術活用システム(NETIS)」の実施要領を改正し、平成26年4月より施行しました。主な改正内容は以下の通りです。

## 改正1.現場ニーズに基づく技術公募による活用・評価の促進

新技術の現場導入及び評価の加速化を図る取り組み

## 改正2.外部機関の活用による有用な技術の現場導入促進

外部機関で活用された技術の評価結果等を活用することで、有用な技術の現場導入の促進を図る取り組み

## 改正3.新技術の登録申請時における技術特性の明確化

技術特性を明確にした登録を実施し適材適所での活用促進を図る取り組み

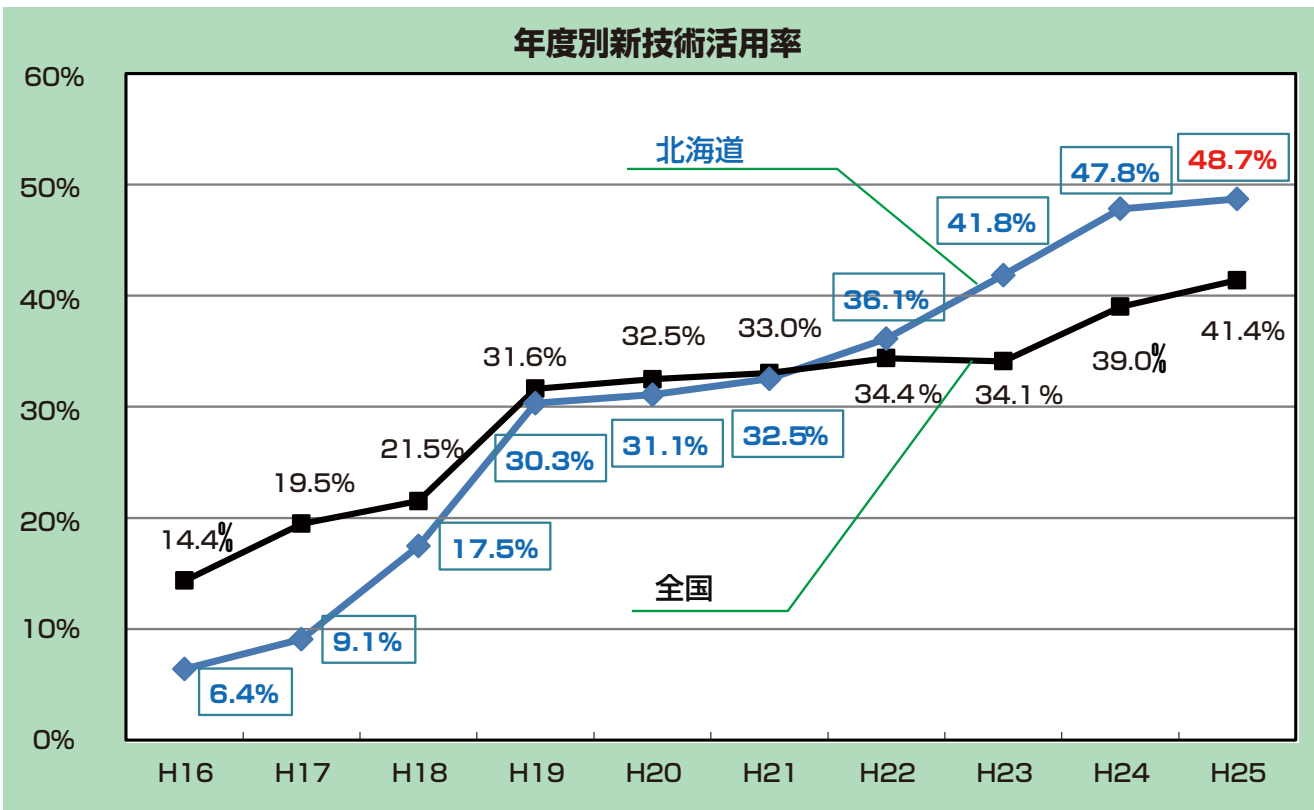
## 改正4.新技術活用後の評価における技術特性の明確化

技術特性や定性的な評価(コメントを重視した評価)を実現する等、新技術の現場導入促進を図る取り組み

なお、詳細につきましては、下記のアドレスにて参照願います。

[http://www.mlit.go.jp/report/press/kanbo08\\_hh\\_000258.html](http://www.mlit.go.jp/report/press/kanbo08_hh_000258.html)

# Topics 新技術活用状況について【報告】



平成16年度は6.4%(工事20件に対して1件の活用)であった活用率が、平成25年度では48.7%(工事2件に対して1件の活用)となりました。今後も、よりいっそうの活用を目指して、取り組んでいきたいと思ひます。



～有用技術と活用事例の紹介～

# NETIS 現場Pick up

北海道開発局の発注工事において活用された有用な技術をご紹介します。今回は、法面工のうち植生に関する技術をピックアップします。

【NETIS No. QS-000021-V】

## ロービングウォール工法

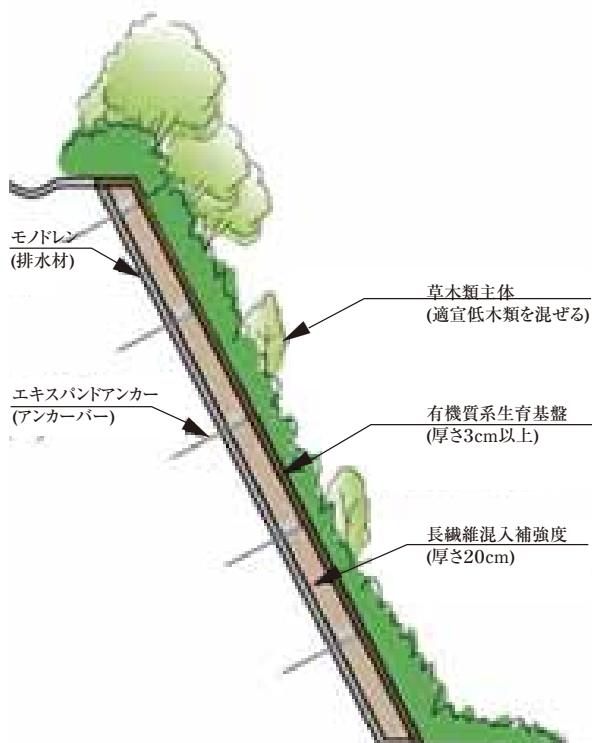
### \* 技術紹介

ポリプロピレンの長繊維を混入した砂と安定化材の混合物を補強土工として法面上に造成し、その表面に植生基材吹付等の緑化を行うことで、法面の安定化と植生を行う補強土一体緑化工法です。

従来はコンクリート吹付法枠などを行い、枠内に植生を行う工法が一般的でしたが、本工法はコンクリートの打設作業がないため、工程短縮が可能となります。また、全面緑化ができ、施工後にコンクリート構造物が露出することなく、景観に配慮した技術です。

より不安定な法面への対策工として、グラウンドアンカー等との併用も可能です。

全国各地で活用実績があり、2007年に行われた事後評価で有用な技術(設計比較対象技術)となつてからは、さらに多くの現場で活用されている技術です。



排水材・アンカーバー設置



長繊維混入土吹付



植生基材吹付



## \*活用工事について

### ●平成22年度 旭川開発建設部管内にて活用

#### 【工事概要】

当該現場は沢地形上へ高盛土を行い作られた国道です。融雪期、盛土法面と背後地からの水の供給により、地下水が上昇し、斜面崩壊が引き起こされた箇所の復旧を目的とした法面補修工事でした。

対策工として、水平排水工により地下水位の低減を行い、ロックボルトで地山を補強し、法面保護工としてロービングウォール工法が選定されました。

#### 【施工現場の写真】



施工直後

4年経過



H26.6.25

(法面の安定と良好な植生が確認)

## 現場の声

コンクリート吹付法枠に比べて養生期間が短く、法尻から段階的に施工を行うため、養生期間中にロックボルトの受圧板設置などの別作業を行うことで待ち時間が短くなりました。降雪時期も近づいていたため、施工を早く行えたことが一番良かったです。

その他、降雨による基盤材の流れ出しが心配だったため、天候には注意して施工を行いました。



施工を行った増山建設(富良野市)才田課長に話をうかがった。

\*その他の活用工事でのコメントを紹介します。～活用効果調査表より～

#### ●H24年度 釧路開発建設部管内にて活用(トンネル工事)

「コンクリート打設がなく、管理項目が減少した」「施工時間が短縮できた」「全面緑化できるため、周辺景観との調和が可能」

#### ●H22年度 札幌開発建設部管内にて活用(トンネル補修工事)

「従来のコンクリート法枠に比べ、施工が容易であった」「樹木の伐採がほとんど発生せず、また全面緑化を行えるため、周辺環境との調和が図れる」

#### ●H21年度 小樽開発建設部管内にて活用(法面外工事)

「従来工法(吹付枠工)と比較して、法面上での鉄筋組立・型枠設置等の熟練作業が不要となり、工期短縮と施工性向上となった」